

読売歌壇

小池 光選

老けたなテレビ画面の女優観て夫が言えはちよつとうれしい
 つくば市 岩瀬 悦子

【評】この心理はなかなか複雑である。日ごろ自身の老いにさびしい思いをしているが、あの女優でも老いたと思えば、いささか諦めもつく。夫の一言がなぐさめになった。ときには蝶はたまに蜻蛉、雨蛙墓参の我が父が寄り来る
 安中市 田口 明子

【評】墓参りの歌。行く道々に、蝶々やトンボや雨蛙までが、わたしを迎える。まるで亡き父を迎えるように。死者は、小さな無数のいのちとなって、いまわたしに甦る。
 ふるさとに「ごはん食べたか」が口癖の母がいるなりつわぶぎの花 高崎市 長友 聖次

【評】結句、一転して「つわぶぎの花」と据えたところで歌になった。母を思えばふるさとの庭のつわぶぎの花が思われる。
 元日にをはりなき世のためだと唄ひて何も疑はざりき 群馬県 真庭 義夫

元日は能登大地震二日は飛行機の事故三日友の死 長野市 中沢 義寿

引退を告げし植木師新年の吾が庭に來て樹々に挨拶 八王子市 齋賀 勇

頬に手を当てれば小さき吹出物八十路の皮膚はまだ生きており 大阪府 黒田 道子

あさまき東京行きののぞみ号みな前を向きパソコンを打つ 東大阪府 池田 敏子

昼間見しふくらすめを思ひを羽毛ふとんに眠らむとして 枚方市 鍵山奈美江

夜なべして母と叔母とが縫いあげし着物で踊りき「チャグチャグ馬つこ」 仙台市 小野寺寿子

栗木 京子選

祈るより外なし能登地震の叫びを聞きぬ「あつ山が流れる」
 東松山市 嘉藤小夜子

【評】一月一日午後四時過ぎに起きた能登半島地震。土砂崩れ、地割れ、津波、火災。ライフラインを断られた地を厳しい寒さが襲う。一刻も早い復旧を祈るばかりである。今年こそ被災地という言葉なぞ聞かぬようにと拝みにしに 地震 いわき市 山田 吉胤

【評】初詣に行つて一年の無事を願つたころだったのに。いわき市在住の作者は東日本大震災の体験者であるのだろう。「被災地」という言葉のつらさをあらためて思う。
 被災地になぜ雨なんか降るのでしょう妻の言葉に深くうなづく 奈良市 西本 匠

【評】地震の発生がもつと暖かい季節だったなら、とつい考えてしまう。被災した方々の体調が案じられる。太陽の光がほしい。
 コロナ経て中古車市場拡大すモッタイナイは日本の文化 浜松市 高田 圭

学び舎の透き通るガラス窓そこから先は風と空だよ 我孫子市 森住 昌弘

もう誰もわたしを叱ってくれぬこと思う夜半の柚子湯の香り 横浜市 ぬまたゆり

謹呈とサインされたる亡き君の歌集が古書店に売られおり 四街道市 中瀬 笹男

元日の牛舎あかあか灯をともし命はすべて匂ひ立つもの 雲南市 熱田 一俊

路地裏に羽子つきをする姉妹あてしはし人びと集まりて見る 東京都 山本 由美

受験生の孫は第一志望校を応援している箱根駅伝 さいたま市 大塚 数子

依 万智選

いつもよりシャワーヘッドの位置高しそうだ息子が帰ってきたんだ つくば市 小林 浦波

【評】小さな違和感に宿るリアリティが素晴らしい。自分よりの背の高い息子なのだろう。シャワーヘッドの位置から、存在をかみしめる流れが自然だ。下の句の口語も生き生きとして、嬉しさが伝わってくる。
 柿食えば鐘鳴る寺のあるならば軒の干し柿どの鐘鳴らす 太田市 木戸 健房

【評】千規の句は、柿を食べたから法隆寺の鐘が鳴ったというわけではないが、そこをズラして踏まえている。干し柿に鳴らせる鐘があるという発想が楽しい。
 セロファンとリボンを剥けば花たちは力を抜いてやや生臭い 東京都 大岩 真理

【評】よそぎの服を脱いだ人のよう。下の句に、そこはかたないエロスが漂う。「行きたい」を交換したら「生きたい」になつてどっちも似たような意味 春日井市 月夜の雨 冬の菊いっばい抱へ帰る妻の心は年末年始 岐阜市 後藤 進

パロックとロココの違いよりきみのパロックを解くすべが知りたい 春日部市 宮代 康志

推敲をより周到にせにゃならん二十二円の値上げ対策 厚木市 奈良 握

花林糖かりこり頭ぼりぼりとラスボスめく数Ⅲの積分 小諸市 藤 雪陽

冬、という実感が来てあなたからもらつたすべが防寒具である 日進市 木村 権

ともすれば「以下同文」と端折られてしまいかねない日記つづける 旭川市 中島 邦博

黒瀬 珂瀾選

フーフィーしてパパの手動く児の口へ能登震災の避難所の中 あきる野市 大西 国子

【評】大勢の被災者には妊婦も療養者も乳幼児も 様々な人が大勢いる。ゆえに多様な状況を想定した支援が必要だ。この親子の無事を、そして全ての避難者の無事を祈ります。子を死なせ初めての雪は天からの便りと思う目を閉じて聴く 東京都 風ノ桂馬

【評】鎮魂の思いが切なく描かれた一首。目を閉じながら初雪を浴びるとき、その静寂の奥に、子どものかつての音が響くのだろう。白々と「止まれ」が路に生き返るごとく書かれて新たな年 松戸市 山田 好可

【評】路面標示が塗り直されたのだから。「止まれ」というメッセージなの、新鮮な白の色が新年の出発を印象付けるという、ユニークな矛盾感覚を巧みに表現しました。
 うたた寝の間に母がよく言つてたな楽は苦の種、苦は楽の種 岩国市 井川 栄子

陽光に小波輝く湖のごと客席広く手拍子映る 八王子市 武智 恩

深雪晴れに友は静かに語りたり刺青を消す事を決めしと 村上市 鈴木 正芳

老夫婦のみで迎へる新春に葉牡丹の鉢買ひ求め来ぬ 船橋市 米山 正久

千両の赤と黄色が実をつけて緑色の葉は際立つて見ゆ 薩摩川内市 末永 芳子

新雪に猫の足跡点々と姿見えねど生きる気配あり 奥州市 境 朝子

検査のクレーターだと言いつつ自民党議員その傲慢さ 東京都 野上 卓

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌壇(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はあおさき